

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ボンパドウル綾瀬工場 新築工事	階数	地上2F 地下0F
建設地	神奈川県綾瀬市吉岡東4丁目517番-1 外5筆	構造	S造
用途地域	工業地域、法22条地域	平均居住人員	16 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,000 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年7月 予定	評価の実施日	2026年4月6日
敷地面積	3,210 m ²	作成者	株式会社 未来設計
建築面積	2,137 m ²	確認日	2026年4月6日
延床面積	2,682 m ²	確認者	株式会社 未来設計



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ホールライフカーボン(温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 0.9 ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★	☆☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆ 60% ☆☆☆ 80% ☆☆☆ 100% ☆☆☆ 100%超: ☆ 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q のスコア = 2.7		
Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.1	Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.9	Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア = 2.4
LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.0		
LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.3	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.8	LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合 建物の断熱性能の確保や高効率設備の採用を基本とし、省エネルギーに配慮した計画としている。また、廃棄物保管スペースの確保により分別対応を図るとともに、建物配置や開口計画において周辺環境への影響低減に配慮している。		その他 省エネルギー性能の確保、廃棄物分別への配慮、周辺環境への影響低減等、総合的な環境負荷低減に配慮した計画としている。
Q1 室内環境 断熱性能確保、適切な空調設備の採用により、良好な温熱環境の形成に配慮している。採光計画、照明計画により快適な視環境の確保を図るとともに、使用材料については一般的な低VOC材料の採用を想定している。	Q2 サービス性能 従業員の利便性および快適性に配慮し、食堂や休憩室（談話室）を設けている。また、動線計画においても作業効率および安全性に配慮した計画としている。	Q3 室外環境 (敷地内) 敷地内に高木（ソメイヨシノ、イロハモミジ、ハナミズキ等）を配置し、四季の変化を感じられる植栽計画としている。また、緑化により景観形成およびヒートアイランド現象の緩和に配慮した計画としている。
LR1 エネルギー 省エネルギー基準に適合しており、一次エネルギー消費量の低減を図った計画としている。なお、工場部分のBEIは0.48、寄宿舎部分のBEIは0.98である。	LR2 資源・マテリアル 廃棄物の分別保管スペースを確保しており、資源の有効利用に配慮した計画としている。なお、使用材料の詳細については施工段階で確定するものとする。	LR3 敷地外環境 外壁についてはページュ系の明度の高い色彩を採用し、日射反射による熱負荷低減にも配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。

■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される